

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における当社を取り巻く市場環境は、海外においては、中国・アジア地域を中心に省力化、省エネ化に向けた需要が引き続き好調に推移しました。国内においても、老朽化設備の更新ならびに生産性向上を狙いとした生産設備の自動化、省力化、省エネ化への投資等により、需要が堅調に推移しました。なお、米中貿易摩擦等を背景に、一部の市場に減速がみられる等、不透明感を強めつつ推移しました。

このような環境のもと、当社は2018年度を最終年度とする中期経営計画「Renovation2018」の完遂に向け、パワーエレクトロニクス事業の強化、パワー半導体事業拡大に向けた積極投資を推進するとともに、ものづくり力の更なる強化、業務品質向上を狙いとした全社運動「Pro-7活動」の再活性化により、収益力の更なる強化を推し進めています。

当第2四半期連結累計期間の連結業績の売上高は、需要増加により全部門が増収となり、前年同期に比べ244億円増加の4,194億円となりました。

損益面では、売上高の増加及び原価低減等の推進により、営業損益は主要5部門で増益となり、前年同期に比べ58億円増加の185億円となりました。経常損益は前年同期に比べ77億円増加の194億円、親会社株主に帰属する四半期純損益は前年同期に比べ63億円増加の125億円となり、営業損益、経常損益、親会社株主に帰属する四半期純損益いずれも、第2四半期連結累計期間としては過去最高を更新しました。

当第2四半期連結累計期間の連結経営成績は次のとおりです。

(単位：億円)

|                      | 平成30年3月期<br>第2四半期連結累計期間 | 平成31年3月期<br>第2四半期連結累計期間 | 増減  |
|----------------------|-------------------------|-------------------------|-----|
| 売上高                  | 3,950                   | 4,194                   | 244 |
| 営業損益                 | 127                     | 185                     | 58  |
| 経常損益                 | 117                     | 194                     | 77  |
| 親会社株主に帰属する<br>四半期純損益 | 62                      | 125                     | 63  |

## 部門別の状況

## 《パワーエレクトロニクス・エネルギーソリューション》

売上高：942億円（前年同期比 5%増加） 営業損益：50億円（前年同期比 30億円増加）

エネルギーマネジメント分野及び器具分野が堅調に推移し、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

- ・エネルギーマネジメント分野は、エネルギーマネジメントシステム及び産業向け変電機器が堅調に推移し、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
- ・施設・電源システム分野は、施設電機分野を中心に大口案件が増加し、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
- ・器具分野は、工作機械をはじめとする機械セットメーカーの需要が堅調に推移し、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

《パワエレシステム・インダストリーソリューション》

売上高：1,418億円（前年同期比 2%増加） 営業損益：19億円（前年同期比 1億円増加）

国内及び中国・アジア地域を中心に生産設備の自動化需要が旺盛なファクトリーオートメーション分野、ならびに設備工事、ITソリューション分野が牽引し、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

- ・ファクトリーオートメーション分野は、低圧インバータ、回転機、FAシステムを中心に国内外で需要が増加し、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
- ・プロセスオートメーション分野は、前年同期の大口案件の影響により、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。
- ・社会ソリューション分野は、放射線機器・システム事業の案件増加等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
- ・設備工事分野は、工場の受配電設備をはじめとする電気設備工事案件の増加により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
- ・ITソリューション分野は、公共分野を中心に案件が増加し、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

《発電》

売上高：492億円（前年同期比 30%増加） 営業損益：19億円（前年同期比 7億円増加）

- ・発電分野は、火力・地熱発電設備及び太陽光発電システムの案件増加により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

《電子デバイス》

売上高：718億円（前年同期比 11%増加） 営業損益：86億円（前年同期比 18億円増加）

- ・電子デバイス分野は、産業分野向けならびに自動車分野向けパワー半導体の需要が堅調に推移したことに加え、ディスク媒体の需要増加により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

《食品流通》

売上高：563億円（前年同期比 1%増加） 営業損益：26億円（前年同期比 4億円増加）

- ・自販機分野は、国内顧客向けの需要が増加したことに加え、中国市場が回復基調となり、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
- ・店舗流通分野は、コンビニエンスストア向け店舗設備機器等の需要減少により、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。

《その他》

売上高：303億円（前年同期比 2%増加） 営業損益：11億円（前年同期比 4億円減少）

(注)第1四半期連結会計期間より、組織構造の変更に伴い、「パワエレシステム・エネルギーソリューション」及び「パワエレシステム・インダストリーソリューション」の各報告セグメントにおいて、集約する事業セグメントを変更しており、各セグメントの前年同期比につきましては、前年同期の数値を変更後の報告セグメントの区分に組み替えたうえで算出しております。

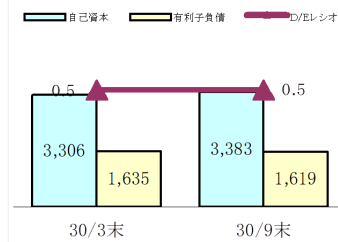
## (2) 財政状態に関する説明

(単位：億円、倍)

|         | 30/3 末 | 構成比 (%) | 30/9 末 | 構成比 (%) | 増減  |
|---------|--------|---------|--------|---------|-----|
| 総資産     | 9,147  | 100.0   | 9,101  | 100.0   | △46 |
| 有利子負債残高 | 1,635  | 17.9    | 1,619  | 17.8    | △16 |
| 自己資本    | 3,306  | 36.1    | 3,383  | 37.2    | +77 |
| D/E レシオ | 0.5    |         | 0.5    |         | 0.0 |

\*自己資本=純資産合計-非支配株主持分  
\*D/E レシオ=有利子負債残高/自己資本

(単位：億円、倍)



当第2四半期末の総資産は9,101億円となり、前期末に比べ46億円減少しました。流動資産は、売上債権が減少した一方、たな卸資産の増加などを主因として、150億円増加しました。固定資産は、退職給付に係る資産の減少などにより、196億円減少しました。

有利子負債残高は、当第2四半期末では1,619億円となり、前期末に比べ16億円の減少となりました。なお、有利子負債残高から現金及び現金同等物を控除したネット有利子負債残高は、当第2四半期末では1,331億円となり、前期末に比べ30億円の増加となりました。

純資産は、利益剰余金の増加などにより、当第2四半期末では3,754億円となり、前期末に比べ89億円の増加となりました。なお、純資産合計から非支配株主持分を控除した自己資本は前期末に比べ77億円増加し、3,383億円となりました。D/Eレシオ（「有利子負債残高」÷「自己資本」）は、前期末と同じ0.5倍となりました。なお、ネットD/Eレシオ（「ネット有利子負債残高」÷「自己資本」）は、前期末と同じ0.4倍となっております。

当第2四半期連結累計期間における連結ベースのフリー・キャッシュ・フロー（「営業活動によるキャッシュ・フロー」＋「投資活動によるキャッシュ・フロー」）は、92億円の資金の増加（前年同期は62億円の減少）となり、前年同期に対して154億円の好転となりました。

## 〔営業活動によるキャッシュ・フロー〕

営業活動による資金の増加は180億円（前年同期は4億円の増加）となりました。これは、たな卸資産が増加した一方で、税金等調整前四半期純利益の計上並びに回収促進により売上債権が減少したことなどを主因とするものです。

前年同期に対しては、176億円の好転となりました。

## 〔投資活動によるキャッシュ・フロー〕

投資活動による資金の減少は87億円（前年同期は66億円の減少）となりました。これは、有形固定資産の取得を主因とするものです。

前年同期に対しては、22億円の悪化となりました。

## 〔財務活動によるキャッシュ・フロー〕

財務活動による資金の減少は151億円（前年同期は68億円の減少）となりました。これは主として、リース債務の返済並びに配当金の支払によるものです。

これらの結果、当第2四半期末における連結ベースの現金及び現金同等物は、前期末残高に対して45億円減少し、288億円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間の連結業績の動向等を踏まえ、平成30年4月26日の決算発表時に公表した平成31年3月期通期の連結業績予想を修正することといたしました。

なお、第3四半期以降の為替レートは、105円/ドル、125円/ユーロを前提としています。

(通期)

(単位：億円)

|                     | 前回発表  | 今回発表  | 増 減 |
|---------------------|-------|-------|-----|
| 売上高                 | 9,000 | 9,100 | 100 |
| 営業損益                | 585   | 610   | 25  |
| 経常損益                | 600   | 625   | 25  |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純損益 | 395   | 415   | 20  |

(参考：部門別)

(単位：億円)

|                                | 売上高   |       |     | 営業損益 |      |     |
|--------------------------------|-------|-------|-----|------|------|-----|
|                                | 前回発表  | 今回発表  | 増 減 | 前回発表 | 今回発表 | 増 減 |
| パワーエレクトロニクス・<br>エネルギーソリューション   | 2,244 | 2,250 | 6   | 164  | 174  | 10  |
| パワーエレクトロニクス・<br>インダストリーソリューション | 3,220 | 3,230 | 10  | 192  | 192  | 0   |
| 発電                             | 1,020 | 1,020 | 0   | 65   | 62   | △3  |
| 電子デバイス                         | 1,330 | 1,400 | 70  | 152  | 159  | 7   |
| 食品流通                           | 1,160 | 1,130 | △30 | 65   | 62   | △3  |
| その他                            | 591   | 621   | 30  | 22   | 24   | 2   |
| 消去または全社                        | △565  | △551  | 13  | △76  | △64  | 11  |
| 合計                             | 9,000 | 9,100 | 100 | 585  | 610  | 25  |